

平成25年度アーティスト・イン・レジデンス事業
- 近代化産業遺産を活用したアートスペースによる国際連携プログラム -

『エヴァ＝デ・クラーク講演 / プロジェクトブースターの役割』
『トークセッション / なぜ我々はこの場所に惹かれるのか?』



Airtist-in-Residence in SHIPYARD

大阪の造船工場跡地を改修した複合芸術施設「クリエイティブセンター大阪」と、同じくオランダはアムステルダムに位置する広大な造船工場跡地を改修したアーティスト・ラン・スペース「NDSM Werf」は2011年から国際連携プログラムを実施してきました。今年度はNDSM Werfで活躍するアーティストの長期滞在制作を実施するほか、造船所跡地である NDSM Werfをアート施設として再生を果たしたエヴァ・デ＝クラーク、そして現NDSM Werf財団代表を務めるアンヌ・マリー＝ホーグランドが来日します。

3月7日(金) 19時開催 講演、トークセッション

【第一部】は、クリエイティブプロジェクト・ディベロッパーであるエヴァ＝デ・クラークの講演『“プロジェクト・ブースター”の役割』を開催します。

エヴァは、アーティストが退去を迫られていたNDSM造船所跡地での法的整備を整え、84000平米の土地の一時活用権を人々のために獲得し、開発理念、実行可能性の調査とその評価、必要財源の確保や追加助成金の手配など、デザインから建築許可に至るまでの一切を任せ、劇場関係者、スケートボーダー、信頼のおける起業家とともにNDSMを巨大な造船ホールへと作り上げました。

その手法は、周辺の地域共同体などを通じて様々な人々に実態を紹介、可能な限りのアイデアを集結していくという、想定外な手法で様々な課題に挑戦しています。

【第二部】は、『なぜ我々はこの場所に惹かれるのか?』と題し、クリエイティブプロジェクト・ディベロッパーのエヴァ＝デ・クラーク、NDSM Werf財団 代表のアンヌ・マリー＝ホーグランド、そしてクリエイティブセンター大阪のプロデューサーでありART COMPLEX 代表である小原啓渡の三人のディベロッパーによるトークセッションを行います。

小原は、『アートの複合＝コンプレックス』をテーマに、劇場プロデュースの他、文化支援ファンドの設立や造船所跡地をアートスペース「クリエイティブセンター大阪」に再生するなど、芸術環境の整備に関わる活動を続けるほか、文化芸術を都市の活性化につなげる様々なプロジェクトを打ち出してきました。

ともに造船所跡地という場所に見出し、リノベーションを行い魅力的な土地へと蘇らせた彼らから、土地の持つ可能性について、発展の過程や人々との関わり、そして規制という壁など、さまざまな角度から語ります。



■詳細■

3月7日(金)19:00-21:00 定員50名
(※要予約)

グランフロント大阪 北館／ナレッジ
キャピタル7階「ナレッジサロン」

■問合せ■ クリエイティブセンター大阪 担当:細貝、下川

〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋4-1-55 名村造船所跡地 TEL 06-4702-7085 / MAIL cco@namura.cc